

仁王門再建碑

常陸国久慈郡佐竹村佐竹寺は寛和元年^(*1) 花山帝^(*2)の勅を奉じて僧元密之を創建す本尊
は 聖徳太子創作十一面観世音にして坂東二十二番札所なり此地高故にして眺望に
富む南瞰すれば溶々たる久慈の清流あり西筑波の紫峰を望み北日光の連山に對し真
に靈域たり往昔佐竹氏累代の尊信深く其後徳川台徳公及び水戸侯の加護亦厚し寶永^(*3)
年間相州浦賀の人石龍坊本寺に仁王門無きを慨し遠く諸州を巡錫して浄財を蒐め苦
心慘愴遂に宿願を成就せり時の棟梁は梶山與衛門なり寺運は時に盛衰を免れざりし
も春風秋雨一千年法燈綿々として今日に至る可惜昭和十四年早春の近火に樓門類焼^(*4)
の災に罹る然るに仁王尊像は里人必死の努力に依り殆んど異変なきを得たり忽ち當
住高橋照嘉氏檀信徒總代と相謀りて樓門の復興を決し東奔西走備に特志家の哀情に^(*5) ^(*6)
訴ふ葺年ならずして約壹萬圓の喜捨を得翌年三月勇みて着工同年末竣成し寺觀舊に^(*7) ^(*8)
勝る正に檀信徒及び有志の崇佛尊祖の象徴と謂ふべし其の工事と相俟て彫刻家石塚
裕康氏尊像修理を行ふ不圖も尊像の由來判明せり即ち一基は石龍坊の募りし浄財に^(*9)
依り一基は願主檜澤兵右衛門妻仙同五兵衛妻寅河野與次右衛門妻參の寄進に係る旨^(*10)
を明記せる書符を尊像體内に於て發見す事は寶永中に属し貳百數十年後の今日初め
て世に現はれ人皆讚嘆久しうせり斯くて昭和十六年二月十六日衆人歡喜の裡に盛大
なる落慶式を修す茲に樓門創建再建の顛末並に古今の美事を勒して不朽に伝へ以て^(*11)
世道人心の上に裨益あらんことを念願するものなり^(*12)

昭和十六年九月二十三日 西山修養道場長 正 六 位 等 稻垣國三郎撰並書
新義真言宗智山派管長大僧正 齊藤隆現題字

=====

(*1) 寛和元年：985 年。

(*2) 花山帝：65 代天皇。986 年 6 月に退位。

(*3) 台徳公：徳川家二代将軍秀忠。

(*4) 寶永：宝永は 1704～1710 年。宝永 4 年に富士山の大噴火(宝永大噴火)があった。

(*4) 可惜：あたら、惜しいことに。

(*5) 備に：つぶさに。

(*6) 現在では篤志家と書くところである。

(*7) 暮年：きねん、一年のこと。

(*8) 舊：「旧」の旧体字「舊」の異体字。「舊に」の読みは「もとに」か。

(*9) 圖：(原文ではこの異体字が使われている。新字体では図。「不圖も」の読みは「はからずも」か)。

(*10) 旨：「旨」の異体字。

(*11) 勒：文章を石に刻みこむこと。読みは「ろく」。

(*12) 裨益：助けになること。読みは「ひえき」。